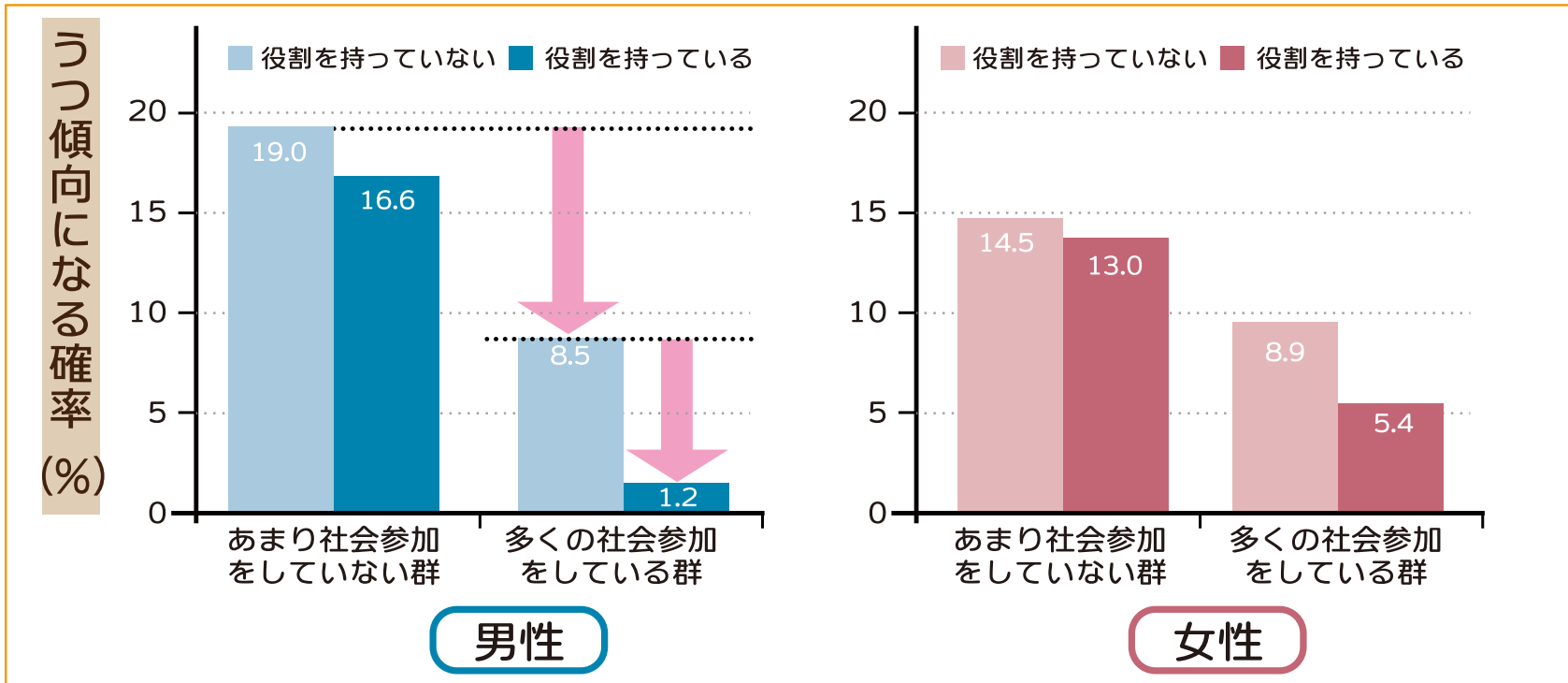


役割を担って

社会参加している

男性はうつ発症リスクが 7 分の 1

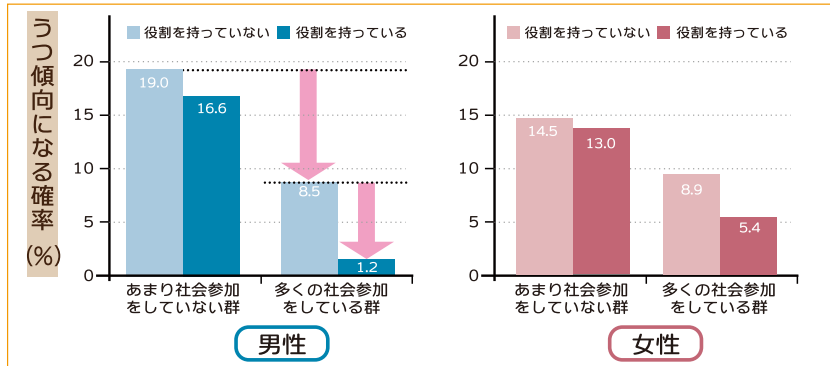
AGES 2003 年調査時点でうつ傾向が無く、2006 年調査にも回答した 65 歳以上の 2728 人



趣味、スポーツ、町内会、ボランティア、老人クラブ、業界、宗教、政治のグループへの参加をたずね、主成分分析で社会参加得点を算出

◆スライド解説

AGES 2003年調査時点でうつ傾向が無く、2006年調査にも回答した65歳以上の2728人



趣味、スポーツ、町内会、ボランティア、老人クラブ、業界、宗教、政治のグループへの参加をたずね、主成分分析で社会参加得点を算出

Takagi, D., Kondo, K., & Kawachi, I. (2013). BMC Public Health, 13: 701. doi: 10.1186/1471-2458-13-701. Press Release NO:48-14-002

問いかけ例

追跡調査から、社会参加とうつ傾向には因果関係があると考えられます。特に、役割を持って社会参加することの効果が大いことが示唆されました。

解説

概要

- 65歳以上の男女約2,700人を3年間追跡調査した結果。
- 趣味の会、スポーツの会、町内会、ボランティア、老人クラブなどのグループへの参加有無から社会参加の程度を判定。

結果

- 「多くの社会参加をしている人」は「あまり社会参加していない人」に比べ、男女ともに3年間で新たにうつ傾向になる確率が低いことが明らかになった。
- 参加するだけでなく「役割を持っている人」の方がうつ傾向になる確率が低い。
- 男性ではこの傾向が顕著。
- 具体的には、男性では「多くの社会参加している人」同志で比較した場合でも、「役割をもっていない人」（うつ傾向 8.5%）に比べて「役割を持っている人」（うつ傾向 1.2%）は、うつ傾向になるリスクが7分の1。
- 女性でも男性ほどの差はないが、「役割を持っている人」の方がリスクが低い。

